

# 白熱の取組

「琴」「恵」「光」のうちわ持つて

## 大相撲 7/9 両親、姉、感動しながら応援

大相撲東頭14枚目の幕内力士として初めての本場所を迎えた琴恵光を、父正倫さん(33)と母多美さん(54)そして姉の朋美さん(28)が客席から見守った。両親は延岡から朝一番の飛行機で、朋美さんは東京から夜行バスに乗って名古屋、ルフィンスアリーナへ駆け付けた。

前日まで雨だったのがそのように、名古屋市内は快晴。早朝から当日券を求めて相撲ファンが並び、会場には満員御礼の懸垂幕が下がった。

両親は事前にチケットを手配していたが、朋美さんは整理券を手に入れるために朝の5時半に並んだ。並ぶ人たちが定員に達したら

整理券の配布が始まるが午前6時にはすでに終了したという。

会場へ入場した正倫さんらは、佐渡ヶ嶽部屋の花部屋十西の枚目に押し出して勝つと大きな拍手を送っていた。午後5時半を回る

と待ちわびた幕内力士の土俵入り。琴恵光は東方の3人目に入場した。会場のあちこちから聞こえる琴恵光への声援を背、正倫さんらは「恵」「光」と書いたレシムのうちわを手に土俵入りを見守った。

姉の朋美さんは緊張しているだろうけど、うれしい。鳥肌が立つた。

「涙が出ました。尊敬する琴恵光と同じ土俵に立つたことが何とも言えません。晴れ姿に感動を抑えきれなかった。

一方で正倫さんは「土俵入りとはふた回りくらいスケールが違う。あの人たちと戦うのかと思うと、こと上位力士の迫力を感じ取った様子だった。

朝乃山との初日は、惜しくも敗れたものの、会場を大いに沸かせる白熱した取組を披露、身支度を調べて会場の外に出た琴恵光に、家族3人でそろってねぎらいの言葉を掛けていた。(甲斐治明)



初めて幕内の土俵で塩をまく新入幕の琴恵光(右)、ドルフィンスアリーナ



初日の応援に駆け付けた琴恵光の両親と姉の朋美さん



取組を終えた琴恵光(右)をねぎらう両親と姉の朋美さん

2018. 7. 9